

地域社会で育む『輝く女性研究者支援』―大分大学での女性研究者支援事業―

第3回 知ってもらったために

大分大学学長補佐(女性研究者支援担当)
女性研究者サポート室長・医学部准教授

松浦 恵子

大分大学の女性研究者支援事業は四つの柱をたてています。その三つ目、四つ目の柱について述べたいと思います。

○三つ目の柱、広報サポート

―知ってもらったこと、理解してもらったこと―

○四つ目の柱、地域連携サポート

―地域で育み、地域のモデルに―

この二つの柱はお互いに関係しています。知ってもらい、理解してもらったこと、それは学内のみならず、地域や次世代を対象としています。地域で育み地域のモデルになるためです。そこで二つの柱の取り組みをまとめて二回にわたり紹介いたします。

■意識改革のために

(1) シンポジウム

シンポジウムは主として市内中心部にあるホテルで行い、一般公開としました。そこで大分大学の取り組みや女性研究者の発表の場

も同時に設けることにより、地域と連携した男女共同参画社会の推進に向けた啓発と位置付けています。

キックオフシンポジウムでは第一回で述べた通り、板東久美子文部科学省生涯学習政策局長(当時)を特別講師に迎えました。パネルディスカッションには、大分県消費生活・男女共同参画プラザ(アイネス)所長にも出演を要請し、地域と大学との連携をお話しいただきました。

平成二十三年度には「男女共同参画公開講座」女性研究者の活躍とワークライフバランス」を、また平成二十四年五月には、大分大学男女共同参画推進本部棟開所記念として「先進的男女共同参画を学ぶ」を開催しました。特別講演では、株式会社資生堂取締役岩田喜美枝氏に「女性はもっと活躍できる!」と題して、お話ししていただきました。いずれのシンポジウムにも県をはじめとす

る行政関係者やNPO法人、地域住民等の参加を得ました。

(2) セミナー

学内での啓発活動としてトップセミナーと学部別セミナーを行ってきました。トップセミナーでは先行する他大学の取り組みについて紹介していただくとともに、大学における男女共同参画推進、女性研究者支援についての個別の問題点などを質疑応答しました。学部別セミナーでは、当室の取り組み紹介のほか、ポジティブアクションやデートDVについてなど、具体的な内容を学外専門家に講演していただきました。

(3) 男女共同参画講義

「男女共同参画」という言葉を知らずに卒業する学生がないようにすることを目指しています。平成二十三年度から新入生を対象に、男女共同参画社会を築くために必要なこと、キャリア形成について学ぶ機会を初めてつく

りました。

■知ってもらうために工夫したこと

(1) ホームページ・広報誌

まず女性研究者サポーター室「FAB」の存在を知ってもらうために、平成二十二年度よりホームページを立ち上げました。イベントやトピックの紹介により日々更新されています。またNews LetterやFABレポートなど、積極的に広報誌の発行を行っています。

News Letterは年四回の発行で、学長、理事のあいさつ文、お役立ち情報のほか、研究者の紹介を行っています。またFABレポートはおよそ二カ月に一回の頻度で、トピックと男女研究者によるエッセイなどを掲載しています。広報誌は学内だけでなく学外にも配布されています。大分大学広報と連携し、大学のホームページでもイベント紹介を行っています。

さらに、女性研究者の数が最も少ない工学部が、ホームページをリニューアルする際、「キャンパスライフ・いきいき理系女子（リケジョ）」のページを協力して作成しました。工学部女子学生の座談会、女性教員の紹介、そしてFABの活動紹介（リケジョを支える！女性研究者サポーター室）などが新たに工学部のホームページを飾るようになりました。

(2) ロールモデル誌

平成二十二年度の意識調査では、女性研究者が少ない原因の一つに、女性のロールモデル



ロールモデル誌

が少なくなることが全体の二四・二%で挙げられていました。ロールモデルの不足を解消するため、平成二十三年度に第一巻となるロールモデル集を発行しました。研究内容と簡単な経歴、ワークライフ・バランスへの取り組み、そして後輩へのメッセージを掲載しています。学内でも、異なる学部的女性研究者の顔と研究をこのロールモデルで初めて知ったという声を聞きました。今年度は続編を発行予定です。

(3) 啓発誌

「研究者」という言葉が持つ特殊な職業としてのイメージを払しょくし、また「研究」という分野への興味を持ってもらいたいという目的で、絵本仕立て



「ママの研究室」



FABちゃん

の啓発本「ママの研究室」を全国にさきがけて発行しました。絵は大分大学の非常勤職員として働くアーティストにお願いしました。ロールモデル誌とともに、県・市町村教育委員会を通じ、県内の各中学校・高等学校・図書館等に配付しました。

(4) マスメディアの活用

学内外へのFABの周知は、前述したホームページや広報誌、ロールモデル誌の他、奨励賞・学会派遣支援・研究補助員雇用支援の公募、シンポジウム・セミナーの開催時に積極的にメールやポスター等で広報しました。しかしこれだけでは不十分な点もあり、特に次世代への周知には親しみやすいシンボルが必要と考えました。

そこで、オリジナルキャラクター「FAB子ちゃん」を作製し、アニメーションを使った広報活動を行いました。アニメーションには、研究者の位置づけ、女性研究者が少ないこと、そのために女性研究者サポーター室が行なっていること、目指すべき姿をコンパクトにまとめました。さらに地元テレビで一カ月



間コマーションル放映しました。これにより、学内外から反響があり、周知に一役買いました。

また、研究補助員の雇用、ロールモデル誌、啓発誌の発行が地元テレビや新聞で取材されました。女性研究者サポート室の取り組みもテレビ、ラジオ、新聞で紹介されました。

(5) 交流会

意識調査で、女性研究者のネットワーク構築を望む声は全体の一五・五%ありました。全体の中で少数であり孤立しがちな女性研究者の交流を図ること、また大学院生を含めた女性研究者の生の声を聞くことには意義があ

ると考えました。そこで、「FAB交流会」と名付けた女性研究者の交流会を現在までに十回以上行っています。学部、職種を超えた交流はこれまでにはなかったもので、大変有意義であるとの意見をいただいています。

さらに、「FABキャリア交流会」として、学外の女性有識者を囲んでキャリア形成を学びました。

(6) 同窓会との連携

大分大学には同窓会組織が大きく分けて六つあります。卒業生に女性研究者サポート室の存在とその取り組みを知ってもらう意義として、現在の大分大学の男女共同参画推進の状況を紹介すること、そして卒業生のなかから潜在的研究者の発掘を行うことがあります。同窓会誌への取り組み紹介チラシの同封、あるいは同窓会誌本体での記事として、すでに医学部では平成二十三年度から始められました。今後他学部同窓会でも実施する予定です。時間の枠を超えたつながりを求めていきたいと考えています。それはとてつもなく大きな力となるはずです。

地域に広がった大分大学のちからや人材を再び現在と未来の大分大学のために結集するため、知ってもらうこと、理解してもらう努力を続けていきたいと思っています。

待望の書籍化!



国立大学法人法制研究会 編著
A5判 / 710頁
定価 4,935円 (本体 4,700円 + 税)

大学の自律性を踏まえた国立大学法人の特殊性を中心に、基本的なロジックと国会答弁等のエビデンスを端的かつ骨太に解説。「文部科学教育通信」誌に平成二十年八月号から平成二十三年一月号まで計五五回連載されたものを、今回改めて全体的に見直し、新たに概説や参考資料等を加え、資料としての充実と便宜を図った。

特色GPPのすべて 大学教育改革の起動 (JUA選書第14巻)

網川正吉 小笠原正明 編 / 財団法人大学基準協会 監修
A5判 / 464頁 4,300円 (税込)

転換期の高等教育 — より良い大学づくりのために —

B6判 / 336頁 山本真一 著
2,415円 (税込)

データで見る 大学財政の基礎知識 3訂版

合田隆史 杉野剛 藤原誠 著
A5判 / 188頁 1,890円 (税込)

障害学生支援入門 — 誰もが輝くキャンパスを —

鳥山由子 竹田一則 編
B5判 / 170頁 1,890円 (税込)

テキスト教育制度・教育法規

霜鳥秋則 著
A5判 / 278頁 2,310円 (税込)